

PARNASSIUS

No. 36

目 次

淡路へきた虫 (1) アルファルファタコゾウムシ	藤 富 正 昭	1
洲本市のセミ類について	堀 田 久	2
洲本市安乎町でクロコノマチョウを採集	堀 田 久	3
阿万でクロコノマチョウを採る	藤 平 明	4
諭鶴羽山でイシガケチョウを目撃	登 日 邦 明	4
リュウキュウムラサキ 2 頭を記録	藤 平 明	5
灘でイシガケチョウを記録	藤 平 明	6
チョウ採集 2 例	前 川 和 昭	6

淡 路 昆 虫 研 究 会

ENTOMOLOGICAL ASSOCIATION OF AWAJI

HYOGO JAPAN

March 1990

淡路へきた虫(1)……アルファルファタコゾウムシ

藤 富 正 昭

梅雨期になると毎年日本へ飛来するトビイロウンカは、遠く中国大陆から気流によって運ばれてくる。稲づくりにとって最も恐い害虫である。

今日、世界貿易の拡大により、オランダ市場で日本商社が購入した生花が、航空便で運ばれ、翌日には、東京で販売される時代となった。

船の輸送も、コンテナ化が進み、食品輸送には、空調設備のあるコンテナが利用されている。

今日、昆虫の多くは、人類が開発したこうした輸送方法の中で、世界中に分散移住を行っている。「招かざる客＝農作物害虫」も、こうした人間の営みの中で、世界から日本へと分布を拡大し、その種類も年毎に増加してきている。

アルファルファタコゾウムシは、名の示す通り、牧草アルファルファの大害虫であり、ヨーロッパからアメリカへ、そして日本へと分布を拡大してきた害虫である。

日本では、1982年に福岡市と沖縄県で初めて見つけられた。主にマメ科植物を食害し、ウマゴヤシ、ゲンゲ、などの雑草を加害する。

淡路島では、1988年に筆者が初めて幼虫を採集した。中国・四国地方で確認されておらず、近畿で最初の発生地が淡路という、ありがたくない記録が残った。

成虫は、さまざまなすき間にもぐり込み夏眠する習性があり、梱包用のダンボール紙の間にも好んで入り込むことが知られている。夏眠中は絶食でも2ヶ月以上生存することができ、ダンボールにもぐり込めば、世界中どこへでも人間が運んでくれる訳である。

日本へ入ってきたこの虫は、年1回の発生といわれ、冬～春に産卵し、幼虫は4月～5月に発生し、5月～6月に蛹となり、6月に新成虫が出現する。しかしながら秋にも、もう1世代あるのではないかと考えられる事実が、いくつか見つかってきている。

アメリカにおいては、3つの生態型があり、休眠の仕方も異なっている。淡路へ入ってきた虫は、九州のものとは、出身地が異なるのか、また、九州から来たものか、これから解明されるだろう。

淡路島における分布と幼虫の食草について以下に記録をとどめておきたい。

(分布) 1988年 洲本市・緑町・津名町

1989年 三原町・西淡町・南淡町・五色町・一宮町、および既発生地

(食草) アルファルファ、ウマゴヤシ、カラスノエンドウ、シロツメグサ、ゲンゲ(レンゲ)

＊ コメツブウマゴヤシ、スズメノエンドウにおける寄生は認めていない。

洲本市のセミ類について

堀 田 久

淡路島産のセミ類についてはいくつかの記録があり、筆者も本誌12号で報告しているが、今後の調査のために、これまでの知見を加えて洲本市内のセミ類について述べておきたいと思う。

セ ミ 科 Cicadidae

1. クマゼミ *Cryptotympana japonensis* Kato

7月中旬から8月下旬にかけて各地に見られるが、個体数にはかなり変化がある。例えば安乎町北谷の筆者の自宅付近では最近少なくなったが、逆に以前よりも個体数が増加していると思われる地域もある。なお、本種はビワやセンダンの木を好み、特にセンダンの木には何十頭も群がっていることが多い。また、本種の鳴く時間帯は午前中であり、それも8時から11時が主であって、午後に鳴き声を聞いたことはない。

2. アブラゼミ *Craetopsaltria nigrofuscata* Motschulsky

7月上旬より9月上旬にかけて見られる。最も普通の種で各地に多産するが、山地よりも平地に多いようである。

3. ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi* Fabricius

7月上旬から8月下旬に見られ、夏のセミとしては最も早く出現する。各地に普通で平地にも山地にも多産する。

4. ヒグラシ *Tanna japonensis* Distant

7月上旬から8月下旬に出現する。平地では見られないが山地には普通で、特に先山には個体数が多い。安乎町や中川原町の低山地では、少ないながら鳴き声を聞くことができる。夕方によく鳴くところからヒグラシと名付けられているが、筆者が先山の西茶屋で何度か観察した結果、夕方よりも早朝に最もよく鳴き、7月下旬から8月上旬には、早いものでは5時前から鳴き始めることを確認している。

5. ハルゼミ *Terpnosia vacua* Olivier

4月下旬から6月中旬にかけて現れるが、平地よりも山地に多く、年によって個体数にかなり差があるようである。なお、安乎町や中川原町では、近年個体数が減少しているように思われる。

6. ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis* Matsumura

7月上旬から8月上旬に出現し、洲本市内では三熊山と先山で確認されている。1975年7月21日、筆者は当時勤務していた洲本市立青雲中学校の生物部員10名と、先山東茶屋

の横で本種の合唱を聞き生息を確認した。そして、1976年7月22日には同校の生物部員が、東茶屋から加茂の方へ少し下がったあたり（標高約400メートル）の原生林で、雄を1頭採集した。筆者もその日同じ場所で、木の枝に着いていた脱皮殻を採集している。合唱から推察すると、淡路島内でもっとも多産する諭鶴羽山よりは少ないが、三態山よりは多いようであった。その後も数回同じ場所で本種の合唱を聞いているが、個体数はあまり多くないようである。

7. ツクツクボウシ *Meimuna opalifera* Walker

8月上旬から9月中旬にかけて出現し、各地に普通で平地にも山地にも多産する。人家の周辺にも多く、洲本市街地でもかなりの個体数が認められる。

8. ミンミンゼミ *Oncotympana maculaticollis* Motschulsky

7月中旬から9月上旬にかけて出現し、山地には普通であるが、個体数はあまり多くない。安乎町の北谷では、近年鳴き声を聞くことが多くなった。

9. チッチゼミ *Melampsalta radiator* Uhler

筆者は1940年代に、安乎町平安浦で本種の死骸を拾ったことがあるが、現在その標本は残っていないし、その後は生息を確認していない。

洲本市安乎町でクロコノマチョウを採集

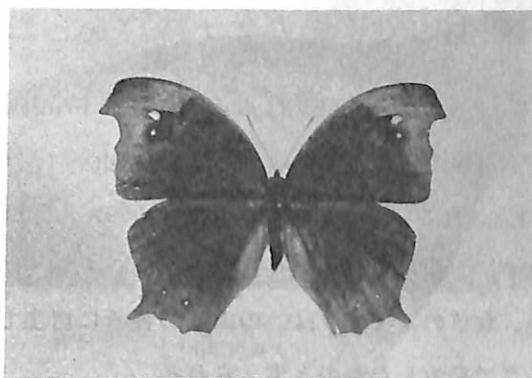
筆者は昨年の夏、自宅の洗面所の窓ガラスに静止していたクロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura を採集したので、報告しておきたい。

採集年月日 1989年8月3日（夏型 1♀）

採集地 洲本市安乎町北谷

なお、本種はこれまでに淡路島では、洲本市相川、洲本市物部、南淡町灘大川、南淡町大日ダム、諭鶴羽山、五色町広石から記録されていた。

（堀田 久）



クロコノマチョウ 夏型 ♀
（洲本市安乎町北谷産）

阿万でクロコノマチョウを採る

少し古い記録ですが、一応報告しておきます。

採集日 1988年9月3日

採集地 三原郡南淡町阿万上町

夕方、ほとんど暗くなってから納屋の入り口から飛び込んで来た蝶が窓際でバタバタと音を立てている。ヒカゲチョウかな？と思ったが何となく型が大きそうだし、はばたき方も激しい。急いでネットを持って来て捕えてみたら本種であった。

(藤平 明)



クロコノマチョウ
(南淡町阿万上町産)



クロコノマチョウ
(南淡町阿万上町産、裏面)

諭鶴羽山でイシガケチョウを目撃

淡路島では イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas mabella* Fruhstorfer は、これまで南淡町阿万(藤平, 1984)、洲本市中川原、安乎町浜 一成虫と幼虫(前川, 1984)、南淡町黒岩(藤平, 1988)などから発見されているが、筆者は昨年(1989)8月11日、南淡町灘山本から諭鶴羽山に歩いて登る途中、2合目あたりと6合目あたりでそれぞれ1個体の本種を目撃したので記録しておきたい。食草のイヌビワはこの山系の各所に自生しているので、他から飛来したものではなく、ここで発生したものと考えられる。

(登日 邦明)

リュウキュウムラサキ2頭を記録

南淡町でリュウキュウムラサキを2頭採集したので報告しておきます。

採集日 1989年8月28日 1♀

1989年9月15日 1♂

採集地 三原郡南淡町灘大川

8月28日は1989年の台風17号が淡路島の上空を通過した翌日の快晴の日でした。前回(1968年8月30日)灘黒岩で採集した時の気象条件と全く同じ状況。20年前の事を思い出して、採集に出かけたら、ねらいが見事に適中しました。

川沿いの道を歩いていると地上2~3mの所を悠々と近づいてくる1頭の蝶、翅の裏の白斑が鮮かに目に映る。立ち止った私の頭の上に止まろうとする所を楽々とネットイン。

9月15日再び、柿の葉に静止している♂を発見。飛び立った蝶はゆっくりと近くを旋回してはまた、元の場所近くに戻ってきて葉上に止まっていました。数枚の写真を撮った後、ネットに納めました。

(藤平 明)



リュウキュウムラサキ ♀
(南淡町灘大川産)



リュウキュウムラサキ ♂
(南淡町灘大川にて)

灘でイシガケチョウを記録

採集日 1989年8月28日

採集地 三原郡南淡町灘大川

イヌビワの葉の上に静止していた2頭を採集.

(藤 平 明)

チョウ採集 2例

筆者は、淡路島内では記録の少ない2種のチョウを採集したので、報告しておきたい.

1. イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas mabella* Fruhstorfer

採集年月日 1989年8月29日, 1 ex.

採集地 洲本市鮎屋

2. クロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* Matsumura

採集年月日 1989年8月14日, 1 ♀

採集地 洲本市千草

(前 川 和 昭)

編 集 後 記

▽ 会員の皆様にはそれぞれの分野で、毎日ご活躍されていることと思います。遅くなりましたが、36号をお届けします。頁数は少ないのですが、藤富氏からは最近淡路へ入ってきた害虫の記事を頂き、また、リュウキュウムラサキ等の貴重な記録を多数お寄せいただき、充実した内容にすることができました。次号は10月ごろ発行する予定ですので、是非原稿をお寄せ下さいますようお願い致します。

PARNASSIUS No. 36

1990年3月20日印刷

1990年3月25日発行

編集者 堀田 久

発行所 淡路昆虫研究会

〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑235 登日方

郵便振替 神戸7-49591

印刷所 れいめい社

〒656 兵庫県洲本市本町5丁目1-24

